

平成23年4月
奈良市（奈良県）

I. 平成22年度フォローアップ結果のポイント

計画期間;平成20年3月～平成25年3月(5年1月)

1. 概況

平成22年は、奈良県全域で平城遷都1300年祭が開催され、市内は多くの観光客でにぎわった。しかし、イベントのメイン会場が中心市街地から離れていたため、その影響は当初予想よりも限定的であった。とはいえ、3月に興福寺の国宝館がリニューアルオープン、11月には三条通りにチャレンジショップがオープンする等の明るい話題もあり、中心市街地へも多数の来訪者があった。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
訪れたいまち	文化・観光施設の年間入込客数 (中心市街地主要7施設)	246,576 人 (H18)	291,720 人 (H24)	295,423 人 (H22)		
歩きたいまち	歩行者・自転車通行量 (休日)	84,993 人 (H17)	91,230 人 (H24)	85,603 人 (H22)		
活力のあるまち	小売業年間商品販売額	434億 円() (H18)	466億 円 (H24)	平成23年度 フォローアップ		

- 注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。
 ※基本計画認定時より推定値であったが、数値が確定したため、本フォローアップから数値を変更する。

3. 目標達成見通しの理由

「文化・観光施設の年間入込客数」は、最新値では前回の数値を上回ったが、対象施設の1つである、なら奈良館が閉館し、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

「歩行者・自転車通行量」に関しては、取組の進捗状況はおおむね予定通りであるが、ここ数年の経済事情から、当初予定通りに進捗していない取組もいくつかある。しかし、引き続き最大限の努力をしていくことにより、目標達成は可能であると見込まれ、引き続き最大限努力していく。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

「訪れたいまち」…前回見通し③→今回見通し④

奈良市独自の事業仕分けで「なら奈良館の管理運営事業」が廃止との判定を受け、平成22年度末でなら奈良館を閉館した。同館は、数値目標である「文化・観光施設の年間入込客数」のうちの1つとして設定されており、目標達成にむけて今後対策を講じる必要がある。

5. 今後の対策

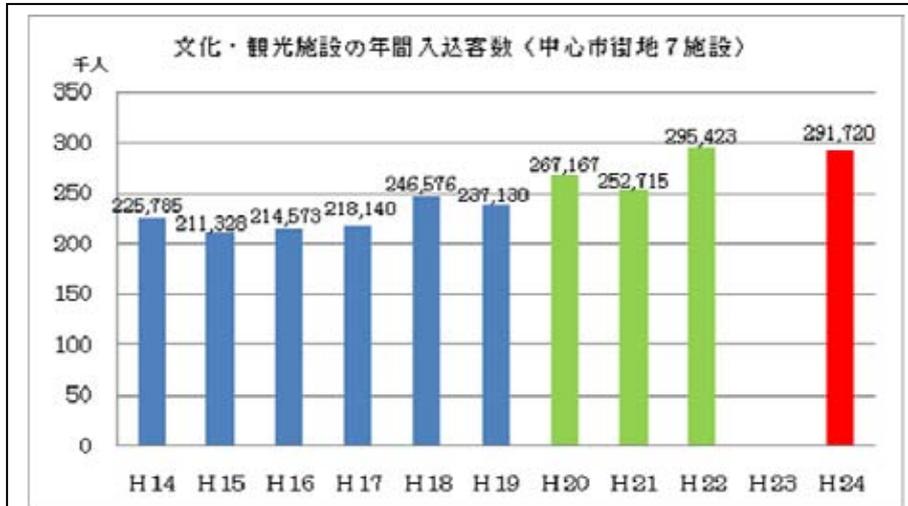
昨年いっぱい平城遷都1300年祭が終了したが、「祭りのあと」とならないよう、今後も様々な取組を継続して行っていく予定である。地域のイベントのさらなる充実等、ビッグイベントに頼らずに、確実にリピーターを確保していくことを念頭におきつつ、新たな取組も必要となってくるであろう。

II. 目標毎のフォローアップ結果「訪れたくなるまち」

「文化・観光施設の年間入込客数(中心市街地主要7施設)」

※目標設定の考え方基本計画 P68～P70 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	246,576 (基準年値)
H19	237,130
H20	267,167
H21	252,715
H22	295,423
H23	
H24	291,720 (目標値)

※調査方法；施設入館者数

※調査月；平成22年1月～平成22年12月

※調査主体；奈良市

※調査対象；ならまち振興館、ならまち格子の家、名勝大乘院庭園文化館、杉岡華邨書道美術館、なら工芸館、なら奈良館、(ならまち舞台縁起座[明新]は、開館しだい調査対象に含める。)

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 名勝大乘院庭園史跡等・登録記念物保存修理事業(奈良市)

事業完了時期	【済】平成22年度
事業概要	室町時代の代表的な庭園である旧大乘院庭園の発掘調査を実施し、その成果に基づいて復元整備を行う。
事業効果又は進捗状況	長らく庭園の復元整備を行っていたが、昨年4月から、平城遷都1300年祭に合わせて一般公開を始めた。同時期に、指定管理者がJRグループの奈良ホテルに代わったことにより、より積極的な広報宣伝や、民間ならではのきめ細やかな接客サービスに取り組んでいる。

②. テナントミックス事業（株式会社桶谷）

事業完了時期	【済】平成 20 年度
事業概要	長らく空き店舗となっていた施設を、近隣からの要望が多かった食料品を扱う店舗として再生させる。また、店舗前の広場を多目的スペースとして活用する。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年には、前年同様レンタルスペースにて奈良県主催のお見合いパーティー、試飲会が行われた。さらに、新たにアートの発表の場や、地域のイベントに向けての会議室としても利用された。また、店舗前の広場では朝市や商店街主催のガラポン抽選会が開催された。今後も、継続して各種イベント等を実施する予定である。

③. 正倉院展関連スタンプラリーイベント「はじまりは正倉院展」事業
（奈良市中心市街地活性化研究会）

事業完了時期	【実施中】平成 18 年度～平成 24 年度										
事業概要	毎秋に開催される正倉院展の来館者に、商店街まで足を運んでもらうため、まちづくり団体や近隣の大学が中心となって始めたスタンプラリーイベント。文化・観光施設にもスタンプを設置している。										
事業効果又は進捗状況	<p>昨年は、平城遷都 1300 年祭に併せて、「あるくん奈良まちなかソバル」という、食べ歩きイベントを同時開催した。（バル開催は 1 日のみ。） 今後も、イベントを継続し、さらに発展させていく予定である。</p> <p>参加者数推移</p> <table> <tr> <td>平成 18 年</td> <td>3,066 人</td> </tr> <tr> <td>平成 19 年</td> <td>5,863 人</td> </tr> <tr> <td>平成 20 年</td> <td>7,852 人</td> </tr> <tr> <td>平成 21 年</td> <td>7,689 人</td> </tr> <tr> <td>平成 22 年</td> <td>12,698 人</td> </tr> </table>	平成 18 年	3,066 人	平成 19 年	5,863 人	平成 20 年	7,852 人	平成 21 年	7,689 人	平成 22 年	12,698 人
平成 18 年	3,066 人										
平成 19 年	5,863 人										
平成 20 年	7,852 人										
平成 21 年	7,689 人										
平成 22 年	12,698 人										

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

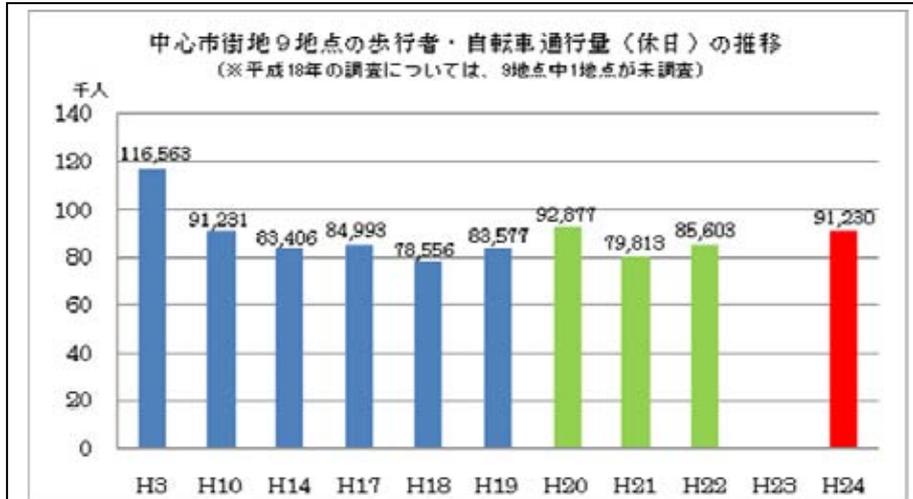
昨年の文化・観光施設の年間入込客数は、ならまち振興館を除いた5施設で前年と比べて増加した。特に、なら奈良館は大きく増加している。これは、近鉄奈良駅に直結という立地条件の良さから、平城遷都 1300 年祭の来訪者が多く訪れたためと考えられる。また、名勝大乘院庭園文化館では、昨年4月から庭園の一般公開が始まり、この影響で、入込客数が増加したものであろう。

昨年は、様々な要因で入込客数が大幅に増加したが、平成 22 年度末で、なら奈良館が閉館しており、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

II. 目標毎のフォローアップ結果「歩きたくなるまち」

「歩行者・自転車通行量(休日)」※目標設定の考え方基本計画 P71～P74 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H17	84,993 (基準年値)
H19	83,577
H20	92,877
H21	79,813
H22	85,603
H23	
H24	91,230 (目標値)

※調査方法；歩行者及び自転車通行量調査（毎年度 8 月実施）

※調査月；平成 22 年 8 月実施

※調査主体；奈良市中心市街地活性化協議会

※調査対象；歩行者及び自転車通行者、休日 9 地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. ホテル建設事業（奈良市）

事業完了時期	【未】平成 20 年度～
事業概要	「奈良らしさ」を意識した内装で高規格・高品質のホテルの建設を行い、宿泊機能の強化を図る。
事業効果又は進捗状況	平成 21 年 3 月に事業主体がホテル建設着手段階で事業からの撤退を表明したため、交渉の末、奈良市がホテル用地を買い戻したが、昨今の社会経済情勢の下、新たな相手方を見つけることは困難であり、今後の目途は立っていない。

②. テナントミックス事業（株式会社桶谷）【再掲】 P4 参照

③. 正倉院展関連スタンプラリーイベント「はじめは正倉院展」事業 （奈良市中心市街地活性化研究会）【再掲】 P4 参照

④. セーフティステーション事業（社団法人奈良市商店街振興会）

事業完了時期	【実施中】平成 18 年度～
事業概要	子どもの安全はもとより、奈良を訪れる来街者が安心して中心市街地で過ごすことができるよう、警察署、消防署、学校、PTA 等と連携して安全・安心なまちづくりを行う。
事業効果又は進捗状況	子どもが身の危険を感じた時に、気軽に店舗に助けを求められるよう、子ども 110 番のステッカーを配布し、商店街に加盟している各店舗に貼り付けている。また、地元警察と連携し、情報交換等を行っている。さらに昨冬は、全国的にインフルエンザが流行したため、成人式にてマスクを配布した。 今後も、地道に活動継続していく予定である。

⑤. 業務用空きビルを活用した起業家育成事業（平井不動産株式会社）

事業完了時期	【済】平成 22 年度
事業概要	空きビルに、将来の独立開業を目指す起業家を集め、奈良の特産品及び将来特産品になりえる商品の販売を中心に、その事業スキルを育成する。
事業効果又は進捗状況	昨年 11 月にチャレンジショップをオープンした。基本的には、それぞれのブースで営業をしているが、カフェの店内で、他テナントの商品を展示販売する等の入居者同士での連携もはかっている。また、事業主体としては入居者に営業面でのアドバイスをを行っている。 今後は、勉強会を開催したり、商店街とも様々な連携をはかる予定である。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成 22 年は、平城遷都 1300 年祭の影響で、多くの来訪者があると予想されたが、その効果は限定的であった。また、例年になく猛暑により昼間の歩行者が減少した。とはいえ、今回の調査結果は、平成 20 年を除いた最近 10 年間の数値を上回っており、様々な取組の成果が表れているものと思われる。

全ての取組の進捗状況が予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。